

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

今日7日は七夕、五節句の一つで「星祭」とも呼ばれている日だ。七夕料理の一つで中国の故事に由来し、無病息災を祈り天の川

に見立てて盛り付けられた「素麺」を食べながら、たとえ雨が降ったとしても家族で織姫と彦星が年に一度だけ会うことを許されたという七夕伝説を語るのも楽しいものだ。

6月初旬、大町市で68歳以上の男子チームが、9月に茨城県で開催予定の全国大会と富山市で開催予定の北信越大会の出場権を競って戦う第18回全日本ハインニアンソフトボール大会長野県大会の審判員として参加する。

ド整備環境が良かっため、2日目は何の問題もなく熟戦が繰り広げられた。

10チーム参加の中に地元大町市から2チーム、安曇野市から2チームが参加。選手の方々は、地域活動に尽力している

方が多く、スポーツを盛りあげ、地域を活性化しているのだと確信できた。明日8日には大町市平運動場で準決勝・決勝戦が行われるので、是非勝ち残った地元チームに声援を送り全国大会出場の実現を地域で盛り上げてほしい。

「緑」に関心を持って自然探訪を楽しもう

1951年に北米原産のブルーベリーが日本に入り、全国でも観光農園が多くみられている。春にスズランの

ような可憐な花を咲かせ、毎日赤紫の果樹が食卓を賑やかしている。だが収穫適期も短

く収穫時間も午前中が好まれ、栽培農家のメンバーが高齢化の為に手入れの行き届かないブルーベリー園を見かけることが多くなってきている。生産者としてブルーベリーを必要としている観光産現場が

連携して、高齢化社会でも可能な持続可能な地域特産物の栽培方法を模索してほしいと願っている。

この時期に日増しにきらめきを増している「緑」。自然のエネルギーを感じる「緑色」には、由来や濃さ・深みに

よってさまざまなる名前や種類が存在していることを考えることは少ない。深い緑色の「深碧(しんぺき)」色。濃い緑色の「花萌黄(はなもえぎ)」色。常盤(とまひら)色。薄い緑色の「黄浅緑(きあざみどり)」色。

「若菜江(わかなき)」色・「明黄(もえぎ)」色・「くすんだ緑色の「松葉(まつば)」色・「草(くさ)」色など名付けられた緑色の表現。50色以上あるとされる緑

も、何気なく使う緑の表現にも、多くの由来が有ることに気付けば、日々の自然探訪が楽しくなるに違いない。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



やしろ公園運動広場の「ヤマボウシ」花木の楽しさを伝えてくる